

よくばりウォーキング



健康増進や地域の魅力再発見等を目的にしたウォーキングです。昨年は、太陽光発電所等を見学しました。

親子リンゴ狩り



地域のリンゴ農家を訪問し、親子でリンゴ狩りを楽しみました。農家の苦勞を知り、自然の恵みに感謝する機会になりました。

子どもお茶会



学童保育で毎週1回、お茶のお点前の練習をしています。練習の成果を家族や地域の人に披露しています。

カローリング大会



子どもも興味を持ちやすいカローリング大会を行いました。誰でもできる競技を通して三世代の交流を図っています。

表紙写真

地域住民の絆を深める公民館活動

氷見市阿尾公民館

令和6年1月に起きた能登半島地震や令和8年8月の大雨によって、氷見市では多くの家が被害を受けました。阿尾地区も例外ではなく多くの家が解体され、やむを得ず地域を離れた住民もいます。さらに、翌年には老人会が解散し、住民の繋がりが希薄になっています。

そこで、阿尾公民館では、郷土や地域の人のよさに触れる活動を行い、地域の絆を深めたいと願っています。参加者を限定せず、子どもやその親、高齢者、地域の人々が参加したくなる事業を展開し、地域の活性化に繋がりたいと考えています。

〈本号の主な内容〉

- 2面 ● 第20回定期評議員会
 - ・会長挨拶
 - ・本年度活動目標
- 3面 ● 初任者研修会
 - ・講演概要
 - ・委嘱公民館の発表
- 4面 ● 第20回富山県公民館大会
 - ・会長・県教委挨拶
 - ・講演概要
- 5面 ● 委嘱公民館の発表
- 第54回富山県社会教育大会
- 6面 ● わが町の公民館活動
 - ・富山市立山室中部公民館
 - ・滑川市山加積地区公民館
- 7面 ● わが町の公民館活動
 - ・小矢部市立松沢公民館
 - ・黒部市立石田公民館
- 8面 ● 表彰館紹介
 - ・黒部市立浦山公民館

第20回定期評議員会開催



中西 彰会長

第20回定期評議員会は、5月14(木)に県教育文化会館において開催された。議事に先立って中西会長から挨拶があり、「公民館活動の原点を見直すため、全公連発行の『月刊公民館』等を活用してほしい」、「能登半島地震の体験を風化せず、緊張感をもって災害対応、防災に取り組んでほしい」、「コロナ禍の中で身に付けてきたデジタル技術を使った新たな公民館活動に取り組んでほしい」の3点について話があった。

続いて来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財課長中川武志氏から、「近年、人口減少・少子高齢化の加速やAIなどの科学技術の進展、グローバル化・価値観の多様化により、本県の社会情勢は大きく変化しています。こうした中、県では3月に『第3期富山県教育大綱』を策定し、基本理念として『生涯にわたる学びを通じて県民一人ひとりのウェルビーイングを高める』を掲げました。この理想の実現には、家庭・学校・地域の連携による教育環境づくりが重要です。各公民館におかれましては様々な工夫を凝らした活動に取り組まれ、令和5年度から県委託事業『公民館 de つながるモデル事業』が実施されています。対面活動とデジタルを組み合わせ、オンライン講座やSNS、Zoomによる交流などを通して、参加者のデジタル活用力の向上や交流の輪が県内全域に広がるなどの成果を上げています。今年度も引き続き実施し、地域活性化につなげるとともに、幅広い世代に公民館活動への関心をもっていただけるよう、ご協力をお願いいたします。」とのご挨拶があった。



中川武志 課長

《令和8年度県公民館連合会役員》

顧問	鹿熊 久三(富山市)
会長	中西 彰(富山市)
副会長	中村 茂信(富山市) 高井 清高(高岡市)
	山口 豊(黒部市) 吉田外茂治(小矢部市)
	荒井外志明(高岡市)
理事	堀江 庄一(富山市) 森田 優弘(富山市)
	伊藤 和雄(富山市) 蒲田 幸雄(高岡市)
	佐伯 靖彦(射水市) 山浦 尚(魚津市)
	小谷 超(氷見市) 水井 勤(滑川市)
	藤田 栄(砺波市) 藤井 健(南砺市)
	高島 正美(舟橋村) 堂徳 春彦(入善町)
	和田 彩未(黒部市) 松田 智幸(滑川市)
	水口 美枝(南砺市)
監事	谷口 浩(魚津市) 山本 修一(南砺市)
	荻野 直樹(氷見市)
事務局	本田 正則 木本 聡子

《令和8年度活動方針》

公民館は、地域の人々に最も身近な学習や交流の場として、人々の教養と生活文化の向上や福祉の充実、健康の増進、地域の安全・安心の向上等、地域社会の中で大きな役割を果たしている。

しかし、近年の少子高齢化の進行や家族形態の変容などによる地域社会の絆の希薄化、制度面での変革、自然災害の多発、新型コロナウイルス感染症予防をはじめ、多くの課題が顕在化し、公民館の管理・運営の柔軟な対応が求められている。

このような現状を踏まえ、我々は公民館が地域社会のかけがえのない拠り所となるよう不断に自らの在り方を見直し、今日的な役割や課題、新たな要請やニーズに対応すべく、自主的・自立的、効果的な運営に一層の工夫努力を重ねていかねばならない。

本会は、このような状況を踏まえ、地域コミュニティの向上のために、関係諸団体等との連携及び公民館相互の連携を一層密にし、地域の特性を生かした公民館活動が活発に展開されるよう努める。

《令和8年度活動目標》

- ・公民館の発信力を高めるとともに、地域の多様な関係団体等との連携・協働、地域の様々な人材の発掘、連携・活用等を促進する。
- ・地域の特性を生かした事業やまちづくり、防災・減災、安全・安心の地域づくり、人々の自由で主体的・創造的な学習活動の充実等を通して、地域の絆を築く取組を推進する。
- ・住民が地域に誇りと愛着をもち、青少年が地域に支えられて心身の成長を遂げられるよう、異世代交流や家族ぐるみ参加により、ふるさとの自然や歴史・文化等を、五感を通して体験的に学ぶふるさと教育活動の機会を充実する。
- ・地域の活力と住民の絆の基盤が、家庭、子供たちの成長にあることに鑑み、地域で子供たちを見守り育てる環境づくりに努める。
- ・地域のニーズを掘り起こし、多様化する要請に対応できるよう公民館職員の職務に応じ専門性を高める研修を充実して資質向上に努める。
- ・公民館施設の耐震化、バリアフリー化の推進とともに、職員の常勤配置等を関係機関に働きかける。
- ・ウィズコロナでの活動の工夫やポストコロナでの学びの在り方を学びあい、これからの公民館活動に活かしていく。
- ・デジタル技術を学習成果、活動の発信や多様な参加へのアプローチ等に活用していく。
- ・大会・研修会や公民館での学びを発信したり、さらに活動の輪を広げたりするなど、学びを生かす活動を推進する。
- ・一人一人が生き生きと自分らしく暮らせるウェルビーイングの向上を目指す。

公民館運営の在り方、地域課題・住民ニーズの把握と事業企画を考える！

令和8年度富山県公民館初任者研修会開催



激励の言葉を述べる小川課長

6月12日(金)、公民館初任者研修会は、70名が参加して県教育文化会館で開催された。

開会に当たり、来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財課課長小川理香氏から、「少子高齢化や人口減少、自然災害、地域のつながりの弱体化など、社会環境は大きく変化しています。こうした予測困難な時代において、地域に最も身近なよりどころである公民館は、重要かつ不可欠な役割を担っています。県では、デジタルも活用した新たな活動を支援しており、貴連合会におかれましても、地域の実情に即した実践を進めておられますことに、深く感謝申しあげます。本日の研修での学びが、日々の公民館運営にお役に立てば幸いです。今後とも、公民館職員としての専門性を深めながら、魅力ある地域コミュニティづくりを進めていただきますよう、お願い申しあげます。」との激励の言葉があった。

引き続き研修に入り、県公連副会長 荒井外志明による「公民館のチャンス・チャレンジ・チェンジ」の講演と、令和7年度研究委嘱館の発表を通して、研修を深めた。

【荒井副会長の講演より】

○講演要旨

1. 公民館とは
 - ・目的：社会教育法第20条
 - ・事業：社会教育法第22条
 - ・つどう・まなぶ・むすぶ
2. 公民館のチャンス
 - (1) 子どもたちに来てもらえるチャンス
 - ① 学習の場の提供
 - ・学習塾
 - ② 外部からの講師招聘
 - ・おもしろ実験教室・プログラミング教室
 - ・室内プラネタリウム
 - ③ 親子で活動シリーズ
 - ・鋳物制作・水について学ぶ(浄化センター)等
 - (2) 多くの人々に来てもらえるチャンス
 - ① 麻雀教室
 - ② 漢字検定の実施
3. 公民館のチャレンジ
 - (1) マネの推奨
 - ・住民のために何をしたらよいか他から学ぶ
4. 公民館のチェンジ
 - (1) 施設のチェンジ
 - ・防犯カメラ、モニター設置
 - ・Canva プロの年間契約 等
 - (2) 活動のチェンジ
 - ・行事のタイアップ



講演する荒井副会長

※富山県公民館連合会のホームページで、講演と実践発表の動画を配信していますのでご覧ください。



【研究委嘱館の発表より】

I 「住民参画による事業の工夫・推進」

上市町立大岩公民館 館長 種五 作夫 氏

1 主題について

少子高齢化と人口減少が急速に進む地域で、多くの住民が交流・参加できる事業の継続を行う。

2 実践事例

大岩地区の小学生が近隣校へ統合され、各団体の会員も減少する中、公民館実行委員会を立ち上げ各団体が連携・協力できる体制を整えた。

パン教室では焼き上がりを待つ時間を活用して消防団と連携した避難訓練につなげた。また、町公連主催の健康マージャン交流会をきっかけに有志が集まり、公民館で麻雀サークルを発足した。

大きなイベントである納涼フェスティバルでは区外へ転出した子や孫も参加できるようにし、区長会との合同企画のカラオケや市販の打ち上げ花火を活用した花火大会など、世代を越えて楽しめる内容を工夫した。

3 成果と課題

各団体や区長会、地区社協の協力により住民同士の絆が深まり、新たな交流の場も生まれた。今後も地域が一体となり住民の集う事業を継続していきたい。



発表する種五館長

II 「校下防災訓練を通して、公助より自助・共助の重要性を確認する」

富山市立岩瀬公民館 館長 浅井 修 氏

1 主題について

岩瀬自治振興協議会には29町内会に6つの自主防災会があり、災害時の一時避難場所と避難所の違いや、役割について住民の理解を深めるとともに、日ごろから防災意識を高める事を目的として防災訓練を実施した。

2 実践事例

岩瀬小学校では、屋上への避難経路や避難スペース、グラウンドの耐震貯水槽からの貯水方法を確認した。また、公民館で備蓄品や能登半島地震の被災記録、防災リュック、段ボールベッド、簡易トイレなどを展示し、非常食や粉ミルクの備蓄状況も確認した。訓練を通して行政による「公助」には限界があることを理解し、自分の命を守る「自助」と地域で支え合う「共助」の重要性を再確認する機会となった。

3 成果と課題

避難所運営には地域の力が欠かせないことから今後も地域行事や防災訓練の機会を通し、行政の支援だけでなく自助・共助の重要性を継続して伝え、防災意識の向上につなげていきたい。



発表する浅井館長

第20回富山県公民館大会開催

9月10日(木)、第20回富山県公民館大会は、約250名が参加して、富山県教育文化会館ホールで開催された。

開会にあたり中西会長から、「公民館 de つながるモデル事業のモデル公民館が、学ばれたデジタル技術をすぐに公民館活動に活用していることに感心しているが、この成果がその地域、そして全県に広まることを期待している。また、11月開催の東海北陸公民館大会愛知大会に多数ご参加いただきたい。」との挨拶があった。

富山県公民館大会の表彰式に続いて、来賓の新田知事代理の初田正樹県教育次長から「人口減少や少子高齢化、グローバル化など社会環境が大きく変化する現代において、人と人がつながり、語り合い、学び合う場としての公民館の役割は一層重要となっています。公民館には、学校・家庭・地域との連携を一層深め、地域の絆を育みながら地域課題の解決や活性化に貢献することが求められています。基本的な3つの機能『つどう』『まなぶ』『むすぶ』を大切にし、地域コミュニティの拠点として、今後さらに発展されることを願っています。県では、『富山県総合計画』を策定し、暮らす人も訪れる人も幸せを実感できる富山県の実現に向けて取組みを進めています。また、自治体では全国初となる『富山県 SWGs 宣言』を行いました。県民の幸せ、地域社会の活力、地球環境の豊かさが調和し、持続可能な『ウェルビーイング先進地域、富山』の実現を目指してその取組みを国内外に発信し、施策の充実に努めています。皆様には、本大会を契機として、多様な人々がつながり、共に学び合う豊かな地域づくりに一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。」との祝辞があった。

【講演】

1. 演題

「変わらないために、変えていく—デジタル時代の公民館の『新しいつながり方』—」

2. 講師

全国公民館連合会

事務局次長 村上 英己 氏

※富山県公民館連合会のホームページで、講演の動画を配信していますのでご覧ください。



挨拶する中西会長



挨拶する初田正樹県教育次長

3. 講演内容(要旨)

(1) なぜ今、公民館にデジタルが必要なのか？

① 新しい層へのアプローチ
・若者、子育て中の親、外出が難しい方

・知っている人だけが得をする状態からの脱却

② 生活様式の変化への対応
・スマートフォンが不可欠な時代

・公民館の窓口を広げる

③ 仕事の簡略化・省力化

・手書き、転記、電話対応などの事務作業を大きく減らす

(2) デジタルは「目的」ではない

・デジタルに仕事を任せ、人間にしかできない仕事を取り戻す

・職員が「住民と向き合う時間」を創り出す

・まだ公民館に出会っていない人をつなぐ

(3) 明日から試せる「作業を減らす魔法」ツール

① Google フォーム【申し込み・アンケート受付】

・電話対応や紙への転記が消滅

・回答は自動で一覧表にまとまり、集計が楽

② LINE / SNS【広報・つながりの維持】

・紙のチラシを配る前に案内が届く

・新しい人の目にも触れるきっかけに

③ Canva【チラシ・掲示物づくり】

・テンプレートで誰でも見やすいデザイン

・Word で一から組む手間をゼロに

④ 共有スプレッドシート【情報共有・デジタル掲示板】

・職員間の連絡や進捗を一元化

⑤ オンライン配信【会場に来られない人への配慮】

・一部録画や同時配信で参加の幅を広げる

(4) 全国の先進事例：技術が生み出した「人の温もり」

・石川県：加賀野コミュニティセンター

・沖縄県：若狭公民館

・群馬県：久留馬公民館

(5) 富山県内でも始まっている「新しい一歩」

・富山市立神保公民館

(6) 導入の鉄則

・最も負担が大きいと感じる「たった一つの作業」から置き換えてみる

・変えないものと変えるべきものを見極め、「人がもっと人らしくいられる公民館」を目指す



講演する村上氏

表彰に輝いた方々

【富山県公民館連合会表彰】

・優良自治公民館

富山市秋吉公民館 高岡市館川町公民館 高岡市若宮自治会公民館

・永年勤続表彰(20年以上)

石黒真里子 恒川 明美 下井 春美 藤澤 智子 島田 真弓 野 明江

土田 恵子

・永年勤続表彰(10年以上)

廣野ひとみ 橋本 留美 中山 智子 堀井 勇 渡部 紀子 山崎 峰子

吉野富士子 宮腰佳納子 上野しげ子 富川 理穂 酒井 務 萩中 誠

塚本 清子 吉崎 嗣憲

令和7年度公民館活動研究委嘱公民館の実践発表

夏休み 福田地域交流センター開放！

高岡市立福田公民館 館長 市野 健一 氏

1. 主題について

夏休みに交流センターを開放し、地域全体で子どもの居場所を提供する自主自立の事業を実施した。

2. 実践事例

福田地域づくり協議会のプロジェクトとしてチラシやSNS、地域広報誌で周知し、サポーターを募集した。

午前中に、学習や遊びのほか、体験教室を実施。「といちんさ」の民謡踊り、俳句の詩吟での



発表する市野館長

表現、富山の民話、手作りの陶芸、eスポーツの「太鼓の達人」などを通して世代間交流を図った。

活動の様子はInstagramで発信し、老人会や各種愛好家・センター利用サークルなど、地域の人材がサポーターとして参加した。

3. 成果と課題

プロジェクトチームによる企画・運営で自主的に事業を実施できた。広報による情報共有が住民の参画につながった。今後は若い世代のサポーターを増やし、活動の継続と充実を図りたい。

※富山県公民館連合会のホームページで、実践発表の動画を配信していますのでご覧ください。



「人と人との絆が深まり 豊かに生きる地域社会をめざして」 第54回富山県社会教育大会開催

第54回富山県社会教育大会は、7月25日(土)県社会教育振興協議会に加盟する11団体から約310名が参加して、婦中ふれあい館で開催された。公民館連合会からは61名の参加があった。

開会にあたり、中西会長が挨拶し、初田正樹県教育委員会教育次長、瀬川侑希県議会教育警務委員会委員長から祝辞があった。

表彰式では、各社会教育団体の活動に長年にわたり貢献されてきた方々に、初田教育次長から感謝状が贈られた。本会からは大野聡一元副会長が表彰を受けた。

その後、文筆家 立野幸雄氏の講演があった。

【講演】

1. 演題

「薬と昆布 一越中売薬薩摩組の貢献一」

2. 講師

文筆家

富山県立図書館 元館長 立野 幸雄 氏

3. 講演内容(要旨)

(1) 富山売薬の発足

- ・「配置売薬」「先用後利」
- ・富山藩の保護と奨励
- ・信頼関係の中で発展

(2) 富山藩の対応と売薬人の組織化

- ・薬種改座：薬種の品質検査
- ・反魂丹役所：売薬人の人的管理、懸場帳の登録・管理等

(3) 売薬人の育成

- ・反魂丹役所による公的統制と寺小屋を通じた専門教育
- ・「身体強健」で「品行方正」な良家の子弟から選抜



講演する立野氏

(4) 越中売薬薩摩組

- ・約17～20人程度（全体の1%未満）
- ・藩が指定した区域内のみで有力者の許可必要

(5) 薩摩藩と密貿易

- ・1609年に琉球を支配し、琉球を独立国として中国と密貿易

(6) 薩摩の密貿易の摘発と薩摩組の活躍

- ・1849年頃、薩摩組が昆布の「運び屋」から、薬種を含めた「販売代行・代理店」になる。

(7) 薩摩組の薩摩藩への貢献

- ・多額の献金以外にも、「隠密(諜報活動)」や「情報のネットワーク」の役割も果たした。

(8) 売薬資本による産業の発展

- ・金融業：十二銀行（現・北陸銀行）
- ・電力事業：水力発電事業（北陸電力の母体）
- ・アルミ産業・金属製品：アルミ王国・富山
- ・ガラス産業：ガラスの街とやま
- ・パッケージ・印刷業：薬の紙袋や「紙風船」
- ・化学工業近代製薬：薬の富山
- ・教育・育英事業：富山薬学専門学校



発表する永山氏

実践発表では、富山市立神保公民館主事の永山雅子氏が「魅力がたつなぐ地域の未来」と題して、にながわふれあい子ども食堂代表の中井啓之氏が「地域のみんなでつくる子ども食堂」と題してそれぞれ実践発表を行った。

最後に、日本ボーイスカウト富山県連盟副理事長の河合常晴氏が大会宣言を提案し採択された。



発表する中井氏

新しい公民館を活動拠点とした 地域づくりを

富山市立山室中部公民館

実に45年ぶりとなる令和8年8月23日に新しい山室中部公民館が竣工しました。場所は山室中部小学校の正門前に移動し、人口約11,200人、世帯数約5,020世帯を数える富山市の山室中部地区のほぼ中央に位置しています。

構造は鉄骨造の平屋建となっており、多目的トイレを整備し、バリアフリー構造となっています。他にも最新の調理器具を備えた調理室をはじめ、利用人数に応じた大・中・小会議室、屋外の北側と西側には大きな庇があり、様々なイベントやサークル活動など地域コミュニティの活動拠点として、さらなる利用が期待されます。

ここでは、現在、行われている特色ある活動を紹介します。

□高齢者支援「いきいき昼食会」

民生委員が中心となったボランティア団体「いきいきクラブ」は、一人暮らし高齢者を対象に年5回昼食会を開催し、包括支援センターと連携したフレイル予防運動やゲームなどを行っている。

□文化活動交流「公民館まつり」

日頃、公民館で活動されている大正琴やナンバピクスなどのサークルが年1回発表会を開催しており、日頃の練習の成果を地域で披露し、サークル同士の交流を行っている。

□多世代交流「ふれあい餅つき」

ふるさとづくり推進協議会が中心となり、杵臼を使った昔ながらの日本の伝統行事「餅つき」を子どもたちへ伝承し、地域の多世代が交流する場として約300人が参加し、毎年12月に開催している。

□多世代交流「ふれあわナイト」

ふるさとづくり推進協議会が中心となり、地域の夏まつりとして、ピアノ教室やフラダンスなどのステージ発表をはじめ、かき氷や焼きそばなどの模擬店、ゲームコーナーなど、多世代が楽しく交流する場として毎年7月に開催している。地元中学生も運営ボランティア「ちょボラ」として参加し大活躍している。



寄り道したくなる、まちかど「公民館」

わが町の公民館活動

滑川市山加積地区公民館

竹でつなぐ地域の伝統

山加積地区公民館は、滑川市中心部から車で20分、上市町との境の山あい、人口458人、高齢化率48%の中山間地にある公民館です。イノシシやサルが姿を見せ、初夏にはホタルが舞う自然豊かな地域です。長く暮らす住民が多く、お互いの顔が見える緊密な関係性であるため、公民館活動への参加率は市内でも群を抜いています。

当公民館では昨年からは、地域の「やっかいもの」とも言える竹を活用した事業に注力しています。地域には竹で大きな櫓を組み、火を灯してご先祖様を皆で迎える「おしょうらい」という伝統行事が古くから伝わります。竹の伐採や櫓の組み方、ロープの縛り方など、今まで先輩方が大切に繋いできた知識や経験が絶えぬよう、公民館が中心となり、地域のみなさんの協力のもと続けてきています。

今年はさらにパワーアップし、地域の子どもたちと一緒に「竹ランタン」を作りました。初めて使う機械に戸惑いながらも、思い思いの模様を真剣に彫り進める子どもたちと、それを見守り手助

けする大人たち。苦勞した分、完成したランタンに初めてあかりを灯したときの子どもたちの笑顔は本当に嬉しそうでした。

8月13日のおしょうらい当日は、その竹ランタンをおしょうらいの会場へ続く道ばたにずらりと並べました。夜空を鮮やかに焦がす迫力ある櫓の火と、足元を優しく包むように照らすランタンの灯り。伝統と新たな挑戦が美しく調和したすてきな夜となりました。今後も世代を超えた絆を育む、温かい公民館活動を続けてまいります。



おしょうらいの火が夜空を照らす

地域を潤すオアシスとなる 公民館を目指して

小矢部市立松沢公民館

松沢地区は、市の中南部の庄川扇状地北西端にある農村地帯で、タワーがシンボルの「クロスランドおやべ」などもあり、近年賃貸住宅の進出などあって、市内でも人口変動の少ない地区で、1,053世帯、2,669人が居住しています。

公民館では、「まつざわっ子教室」と、趣味や健康などのふれあい活動を通じて、いきいきとした生涯を歩むことを目的とした生涯学習講座を展開しています。

まつざわっ子教室では、さつまいも苗の植え付け・収穫などの体験教室や、3世代交流、小学校4年生対象の「お泊り学習会」といった交流活動を実施しています。中でもさつまいもの植え付けとピザ作り体験を同時開催した時には、子どもたちに大変喜んでもらえました。また「お泊り学習会」では児童が公民館で寝泊まりして、自分達で考え意見を出し合い行動することを学んでいます。多くの地区住民に関わり、子どもたちの元気な声やいきいきとした姿から、大人も元気をもらっています。

生涯学習講座では、手芸教室や料理教室などを開催し、食生活改善推進員や長寿会、地区住民が講師や協力者となって、教室を通じた地区住民のふれあいの場となっています。

情報発信では、館報の「松沢公民館だより」を平成26年度から毎月発行に切り替えて、800部印刷し全戸配布しています。子どもたちが活動している様子の写真を載せることで、親御さんにも喜んでいただいています。

松沢公民館では、日頃から自治振興会や社会福祉協議会、その他各種団体の理解もあり、地区全体の連携を深めています。公民館まつりでは作品も多く出展していただき、バザーにも沢山の人が集まっています。



まつざわっ子教室 秋のさつまいも収穫

わが町の公民館活動

黒部市立石田公民館

笑顔が笑顔を呼ぶコミュニティ

石田地区は、富山湾に面した自然豊かな地域で、美しい海岸線と田園風景が広がるのどかで暮らしやすい地区です。人口はおよそ5,600人、世帯数は2,600世帯で、近年では道の駅や商業施設も増え、若い世代が増えたことにより、小学校の新入生が昨年より増えました。

現在、公民館では、体操教室や介護予防教室、コーラス、ヨガ教室など、多様な活動を通じて世代を超えた交流が生まれています。

また、まち歩きボランティア「ぶらり石田」や「有頼柳保存会」が立山開山に関する伝承活動として、地域文化の継承や住民同士の親睦を深める講座や行事を開催し、地域の活性化につながっています。

さらに、いしだ子育てサロン「きらきら・いしだっ子」では、未就学児と保護者が気軽に集い、遊びや季節の行事、参加者同士の交流を通じて、子育ての不安解消、安心して子育てができる環境づくりを進めています。

今年は、ベビーマッサージ教室や離乳食教室な

ど、様々な教室やお楽しみ会を8回計画しました。年々利用が増え、若いママたちが公民館行事にも参加してくださるようになりました。

美しい景観や温かな地域コミュニティに恵まれた石田地区は、公民館を中心とした生涯学習活動やサークル活動、子育て支援活動を通して、人と人とのつながりを大切に育んでいます。子どもから高齢者まで誰もが学び、交流し、安心して暮らせる地域として、これからも魅力ある地域づくりを進めていきたいと思っています。



いしだ子育てサロン「きらきら・いしだっ子」…リトミック教室の様子

表彰館紹介

黒部市立浦山公民館 令和7年度優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰) 受賞

浦山地区は、富山県黒部市の南部、黒部川沿いに位置する旧宿場町で、四季折々の美しい山々や清流に囲まれ、豊かな自然を身近に感じることができます。

人口はおよそ2,000人、世帯数はおよそ760世帯で、地域住民のつながりが深く、盆踊りや祭り、住民運動会など世代を超えた交流事業が活発に行われています。

当館では、公民館活動として定期的に様々な教室を開催しておりますが、浦山の恵まれた自然を生かし、平成26年からホタルのお話と鑑賞会を開催して、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加する世代間交流活動として定着しています。近年は地域住民だけではなく、地区外からの参加者も増えてきています。ホタルを鑑賞しながら、自然環境の大切さや地域の魅力を再認識する機会となっており、参加者同士の交流を通じて世代を超えたつながりが生まれ、地域コミュニティの活性化にもつながる事業となっています。

また、地域防災への意識向上を目的とした防災訓練や防災教室にも取り組んでおり、段ボールでの簡易トイレやベッド作り、簡易DIG（簡易型危険箇所確認図上訓練）、HUG（避難所運営ゲーム）、防災食づくり等を実際に体験していただき、楽しく学んでもらいながら、地域住民一人ひとりの防災意識の向上を図っております。

さらに、自治振興会や社会福祉協議会、消防団、老人会など地区の各団体の代表者や防災士が1年間にわたり毎月集まり、本市初の地区防災計画を作成しました。その取り組み状況を県の研究会でも発表され、県内各地区での地区防災計画策定の推進に寄与しました。

公民館 de つながるモデル事業では、携帯電話の使い方を高校生から教えてもらい、Zoomで黒部市内の高校生と会話を楽しみ、また、県外講師からは新しい知識を得ることができました。

今後も、地域住民一人ひとりが互いに顔の見える関係を大切にし、地域の特色を生かした事業を展開しながら、学びと交流の機会を提供するとともに、世代を超えたつながりを育み、安全で安心して暮らせる地域づくりに貢献していききたいと思います。

また、地域の皆さんと共に歩み、笑顔と活力あふれる地域づくりの拠点として、これからも親しまれる公民館を目指して活動をしていきたいと思ひます。



ほたるの鑑賞会 ほたるについてのお話を聞いてから浦山地区のほたるを見に出かけます。(浦山地内) 沢山の方が参加されました。



ほたるの鑑賞会の参加者とほたるが円舞する風景です。(浦山地内) 特殊なカメラで撮ったものです。



黒部市にある桜井高校生と**Zoom**でつながり楽しい時間をおくりました。出題されるクイズに答えたり、きゅうりを早く切る技を披露したりしてもらいました。



令和4年に**浦山地区防災計画**を作成しました。県で発表しました。